◇ 社用で韓国へ出張した

大槻伸次

この夏(2019 年)、日本と韓国の関係が戦後最悪と言われるほどギクシャクし、テレビ等で連日のようにその内容が報道(ネットも含めて)され、韓国に対する関心が高まった。

そこで、今から 31 年前仕事の関係で韓国へ出張した当時の感想が纏めてあったので読み返してみたら、当時の韓国の世相は一般的に反日的といわれ、首都ソウルではまだ戒厳令が敷かれていたとあった。日本と韓国は隣国同士であり今後の動向が気に懸る

1988 (昭和 63 年 •ソウルオリンピックが開催された年) 年 7 月 6 日出国から 7 月 26 日帰国の 20 日間韓国仁川市にある金星機電株式会社に初の海外出張命令が下った。会社からの出張命令は寝耳に水で、反日といわれる韓国へ行くことへの不安と興味が交錯した。

出張の目的は、韓国金星機電社に当社で開発した CD プレーヤー等に使用される光ピックアップの生産設備を売却 (撤退による) することによる現地立ち上げのためだったのである。

韓国は、成田から2時間弱で行けるとはいえ、外国でありパスポートを取得しなければならないなど色々な準備が待っていた。

売却計画がスタートしてから売却設備の解体と梱包、パスポートの取得、韓国語のにわか勉強等々出張準備に大童となった。日本から韓国への航空運賃は約 40,000 円だそうで、高いのでビックリした。

(帰路、韓国で買ったチケットは 25,000 円)。

出発当日は、会社の車で熊谷駅まで送っていただき熊谷から JR 上野駅へ。JR 上野駅から京成電鉄にて成田空港へ向かった。成田より大韓航空にて初フライト。初めての海外に期待と不安を感じながら 2 時間半後、韓国ソウル近郊の金浦空港へ着陸した。

■写真上 •金星社社員と首都ソウル観光へ。バックに見えるのは南大門(崇礼門)。
■写真中 •韓国、水原(スオン)民俗村入場観光。
■写真下 •水原民俗村売店で、私の氏名を縁起書体で大書して戴いたが(4,000 円位だったか)、書を描いてくれた人が韓国では有名人(八山名人)で、後に「墨」という日本の書と墨画のグラフ誌に当人の写真が大きく掲載されていたのを見た時この人だと直ぐに分かった。(「墨」第 72 号 •1988 年 9 月 10 日号 •韓国の書芸と文字文化特集)

韓国入国時、入国審査がスムースに行くようトラブルの元になるような品物は持たない方がいいとのアドバイスがあったが、一つだけどうしても別便で送れない品物があった為、手荷物として持ちこんだら案の定通関で引っかかってしまった。

ところが、言葉が通じないので英語を交えて説明に四苦八苦したが、なんとしても理解してもらえず入国に手間取りハラハラした。

そこで、どうしたら理解して貰えるか皆で思案した揚げ句思いついたのが、これから向おうとしている韓国メーカーの担当者の名刺を見せることだろうと相談がまとまった。

早速提示したところ、なんとあっという間に通関 OK となった。通関に、あんなに四苦八苦したのになんとも不思議な国に思えた。ということは、金星社とは韓国に於いてはすごい会社なんだなとも理解した。(工場内に郵便局や銀行もあった)。

ようやく通関できてほっとしたところで、関東の連れ小便よろしく皆で空港のトイレに入った。ところが、今度はトイレで肝を冷やすことになった。自分自身はトイレから出て特に咎められることはなかったが、大の方に入った仲間は、用を足しトイレのドアを空け外に出ようとしたら、なんと小銃を持った兵士がドアの前に立っていてびっくり仰天し肝を冷やしたそうだ。というのは当時の韓国ではソウル（首都）に戒厳令が敷かれていて、1日に数回軍隊が出動して軍事訓練が行われているということを我々が知らなかったからである。無事トイレを脱出し、とりあえずホテルへ向かった。

出張中、金星機電社の人達は、日本の三菱電機の社員ということで随分と丁重なもてなしをしてくれたが、この時ほど日本の三菱電機というネームバリューの大きさに納得した。とくに休日の観光においては、一般の観光客が行かない路地裏の飲食街など案内していただき韓国の裏の面も見られすごく有意義だった。

ただ閉口したのは、到着後の宴会において焼酎のもてなしは自分にはすごくきつかった。仲間の O 君は東北人で酒には強かったが、韓国の焼酎のもてなし攻勢には閉口したらしく、ダウンしてしまった。後に聞いたところによると、韓国では宴会が始まると下戸の人は足元のテーブルの下に洗面器を置いて、ここに飲めない酒をそっと流し込むといっていた。そこで、韓国ではとにかく受けた酒は断らることなくいつまでも飲んだ振りをするのが礼儀のようだった。また、食事は、唐辛子の入ったものが多くキムチなど何処の食堂に行っても注文しなくても必ずついてくるのには驚いた。

韓国料理のもてなしもいろいろ受け、いろんな韓国料理を食べさせていただいたが、その代表的なものは、焼肉、うなぎ、ビビンバ、参鶏湯（サムゲタン）、冷麺など我々日本人にも美味しく食べられたが、量はビッグだった。工場食は、日本人は辛いのは苦手だろうと、トウガラシの辛みを減らした食事を準備してくれたのはありがたかった。

また、驚いたのは韓国では料理を刻むのに日常的に料理鋏を使うらしく下町の食堂に

案内されたときのこと、大きな洗面器のような器に入った冷麺が出されたので食べようとしていると、長いと食べづらいからと鋏でちょきちょきと刻んでくれたのには驚いた。

また、韓国料理に韓国の焼酎が良く合うようで、このときの焼酎が美味しかったので帰国寺、現地の「舞鶴(ムハク)」というブランドの焼酎を買った。ところが、どうしたことか日本に帰ってから飲んだら不味くて飲めなかった。

休日等、市内を散策していると店で刺身や海苔巻など売っているのを見かけた。また、立ち寄るチャンスはなかったが、日式(イルシッキ・日本はイルボンで日本人はイルボンサラムと発音していた)と書かれたレストランも散見された。そこで、韓国人は日本食を食べるのかなと思ったが、経験者の話によると日本食に似ているが、似て非なるものだといっていた。とにかく、観光は、ばっちりと案内していただき首都ソウルでは市内観光でイーテーウォン、南大門、南大門市場、慶福宮、昌徳宮、完成したばかりの「ソウル・オリンピックスタジアム」、ロッテデパート、韓国民族村、仁川市内見学、仁川港など盛りだくさんの観光をさせてもらった。

今回の出張で初めて韓国に来たが、あらゆる面で日本に似ているようで似ていない不思議な国だなと感じた。しばらくはカルチャーショックで頭が変になりそうだった。

また、韓国人は性格がとても激しいようで喧嘩と間違えそうな言い争いは日常茶飯事だそうで、時々見かけた。

金星社の社員は我々はに対して、お客様でもありすごく丁重でもてなしなしてくれたが、一般市民においては反日感情が根強くあるなと感じた。

というのは、或るとき、我々だけで街へ繰り出して買い物をしたら法外な値段を吹っかけられて買わされてしまった。我々は法外な値段と分かっていたが、これ以上言い争ってもしょうがないので承知で金を支払ったが、後にも嫌なことがいく度かあった。

恐らく、金星社の人と一緒ならばこんなことは無かったろうが、我々だけの単独行動は危ないと思った。また、金星社に滞在して感じたのはサッカー好きな国民らしく、毎昼休み社員がグランドでサッカーに熱中していた。

我々の出張の目的は概ね順調に推移したが、我々が一日の仕事を終わって引き上げると、金星社社員が無断で作業場に入り込み、日本から持参した資料や工具、測定器など持ち去られた。そこであまりにも紛失が相次ぐので、申し入れるとなんと資料は向学の為に見せてもらったと言い訳して返したが、機器類は関知しないと言い張った。

また、私自身が現地で使用するために持参したデジタル式のテスター他などすぐに紛失してしまった(道具箱の鍵まで持参しなかった)。知識や技術の習得には貪欲であるが、モラルは低いなと感じた。

(2019 年 9 月 20 日　改記)